

# 同 志 社 大 学

## 2016 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2017年2月27日提出

所 属	職 名	氏 名
免許資格課程 センター	教授	大橋 忠司
研 究 題 目	いじめの未然防止の発想に立った学級づくりと生活質問紙(クラスマネジメントシート・愛称「くらまね」)の活用による学級経営の研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>これまでから続けているように、京都市の殆どの学校で実施されている「くらまね」のデータを適宜収集し、整理を行った。数回にわたり京都市教育委員会生徒指導課の担当指導主事や課長補佐と共に協議を行った。具体的には、学級認知の6つの領域とストレス反応、学級認知の6つの領域といじめについての重回帰分析と検討を行った。また、「クラスのまとまり」が低いのに「友達とのつながり」が高いクラス、「クラスのけじめ」「自己開示」が突出して高いクラスなどを「深刻ないじめ」が潜在しているクラスであると仮説をたてて、実際に担任が把握している学級の現状とを比較し検討している。ストレス反応については、生活適応感の7～8つの領域とも分析を行い検討した。さらに学級崩壊の未然防止の観点に立って、学級認知の6つの領域のスコアのグラフをパターン別に視覚化することによって、学級崩壊を未然に発見できないかということも分析と検討を行っているところである。自らは京都市立境谷小学校の校内研修会の講師として生徒指導を進める中で「くらまね」を有効に活用した生徒理解と学級経営について指導・助言を行った。</p> <p>少しずつでもよいので、学校現場や研究会等において「くらまね」の話題を取り上げるようになり、積極的な活用についての意識が全ての教職員に広がっていくように研究を推進したい。</p> <p>残念ながら、今年度は学校訪問による情報収集と学年会等の参加、指導・助言が十分には行えなかった。</p>	